此事稀にあるのみ、駿府近在巡見集云、羽衣へ行道に女松男松一本に二色に別れたる松あり云云、駿府寺社巡見記云、相生松は、神前向通り大楠よし少し先にあり、女松今は枯たり云々、

〔玄同放言〕三浦平松　國崎天道松附出

相模國三浦郡一色村にふりたる松ありけり、土人これを平松と唱ふ、松のある處、守渡より浦賀路を、十五六町なるべし、近きころより、件の松に靈あり、祈ればよろづの病著平癒すとて、近郷の人はさらなり、江戸より詣るも亦多かり、その詣るもの、線香を樹下に立て、默禱す、願事成就の日は、各芝を執る、小幟を建て、賽せざるものなし、小坪の漁夫等、海の幸なきとき、この幟を借りて、その船にたつれば、究めて獲多しとなん、松の前面なる端山の裾に、いとわびたる茶店ありて、線香を鬻けり、眼を病むものは、この樹の虛なる水を乞ひ得て、竹筒にたくはへ、携へかへりて眼を洗へば、果して應驗ありといふ、原この松蔭に、山王の禿倉あり、更に件の松を齋祀て、平松權現と號く、丙子の初冬、余〇瀧澤解は興繼に扶掖れて、江島に遊べるかへるさ、目擊する所なり、木たちのさま、よのつねの物にして、守渡の千貫松には似るべくもあらず、杪繁からで、只向上るばかりなるを、などて平松となづけけん、むかひて左なる大枝は折れたり、二十とせばかりさきの年、雷の落ちたることありけり、そのとき折られたりといふ、茶店の翁が問はずがたりいとをかし、然らばなほその頃は、この樹に靈のあらざるなめり、現に數百年なる物とは見えず、いかなる草鞋大王が、凡夫の爲に福ひして、飽まで齋きまつられけん、生物識のかなしさは、いと解しがたきことにぞありける、

〔武江產物志〕名木〔まつ〕松

御言葉の松　大久保　上意の松　龜戸普門院　相生の松　上野　龜子松　上野

頭巾松　御城内にあるよし　首尾の松　淺草　船松　淺草　霞の松　橋場　斑女が衣懸松　向ヶ岡　道灌

船繋松　鏡の松　根岸圓光寺　五石松　駒込　船繋松　小石川　千年松　筑土八幡　高田　大友の松　牛込　光